



## 先住民族について考える

### 博物館で、国立民族学博物館共同研究会開催

10月21日(金)、22日(土)の2日間、大阪の国立民族学博物館が主催する共同研究会が、アイヌ民族博物館を会場に開催されました。

全国各地の研究者15名が集まり、ハワイとアフリカの先住民活動の事例を中心に、先住民族の権利回復に学問がどんな役割を果たせるかを議論しました。

白老町からは、アイヌ民族博物館の野本正博学芸員、白老町ウタリ施策推進室の能登千織学芸員がメンバーとして参加し、イオル再生の現状を説明しました。

一行はイオルの作業が進行しているウエシマ地区を視察し、その後博物館に戻り、古式舞踊や工芸のチセ、常設展示などを見学しました。



3名のメンバーに、今回の研究会の感想を語っていただきました。

南本学芸員(岐阜県ミュージアムひだ): 普通の研究会では基礎的な知識や理論などが話されるが、今回は実際にアイヌ民族の伝承活動が行われている様子を見ながらだったので、興味深く過ごすことができた。アイヌ民族が、本当に本州の文化とは違う伝統と文化を持つ

ているのだということを実感したし、もっと学校教育で教えるべきだとも思った。研究会の最後に話された、学術的理論が実際の民族運動に役に立つのかという問いかけに新たな衝撃を受けた。

松田教授(京都大学): 北海道の道都である札幌からだいぶ離れているのに、外国人客がたくさん観覧しに来ていることや、展示の解説パネルが英語のほか、中国語でも書かれていることに驚いた。

窪田教授(広島大学): 外国の少数民族の研究者は多いが、国内の少数民族については、あまり良く知られていない。そこで今回の研究会をアイヌ民族博物館で行うことにした。その結果アイヌ民族の現在の活動を知らることができた。

# 秋のコタンノミ実施

10月28日(土)、当館ポロチセにて、毎秋恒例の秋のコタンノミ(感謝と祈願の儀式)を行いました。

火の神、神窓、酒器への拝礼から始まり、自然の恵みが豊かであることを感謝し、皆が健康に過ごせるよう、神々へ祈りを捧げました。

今回のコタンノミでは、大学生や外国人のお客様のほか、アイヌ文化振興・研究推進機構が主催するアイヌ語指導者育成事業の講師と受講者も参列しました。

儀式のあと、当館職員3名が、オйнаとカムイユカラを3分間口演しました。多くのアイヌ語の専門家がいる前なので、発音や節に気を遣いながら、緊張した面持ちで唄っていました。大勢の前で発表したことで、自信をつけることができたようです。



## オйна、カムイユカラを発表 アイヌ語弁論大会 イタカンロー

11月9日(土)、財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構主催のアイヌ語弁論大会「イタカンロー」が様似町図書館で開催されました。当館から、石田慈久恵、小崎明日香、木田瑞恵の3名が口承文芸部門で参加しました。参加した職員は、アイヌ語の先生から直に発音や節のつけ方の指導を受け、毎日練習に励み、大会に臨みました。

残念ながら入賞を果たすことができない結果となりましたが、今回の参加によって、職員の更なる実力アップを図ることができ、意義のある弁論大会となりました。

来年は白糠町で開催されるイタカンローに、町民の方々も一緒に参加しませんか？



口演する小崎職員

### おしらせ

#### ○アイヌ語教室

12月10日(日)17:30~19:00 研修室 内容:「基礎的なアイヌ語」12 講師:本田優子氏(札幌大学助教授)

○休館日 12月29日(金)~1月5日(金)